

医学研究科（博士課程）

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

入学選考にあたっては、医学的な専門知識の上に疑問点の抽出、解決に向けての柔軟で論理的な思考力と豊かな創造性を発揮して研究を遂行する能力を評価する。さらに医学科学に対する興味、好奇心と目標とする研究を遂行するための意欲、前向きな姿勢を見極める。

医科学はきわめて多様性に富む学問であるため、医学部以外出身者や社会人として医療に携わっているひとたちにも広く門戸を開き、新しい考え方で医学研究を遂行できる人材を受け入れる。また、障がい等のある志願者についても可能な限り受け入れる。

最近の研究は、日本内外の研究機関と共同で実施されることが多く、その基本となる情報収集、情報交換のためには、国際用語である英語（独・仏語）の能力を必要とする。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学研究科には人体生物系専攻、生体制御系専攻、病態構造系専攻、病態機能系専攻、社会医学系専攻、先端医療科学系専攻の6つの専攻分野があり、院生はいずれかの専攻分野に属する専攻科のもとで研究を開始する。

大学院1年、2年生は、全ての専攻分野に共通の科目ならびに各専攻分野に共通の選択科目を受講し、医学研究を実施していく上での基本的な知識と技術を身につける。

その間、各専攻科において指導教員と研究課題を抽出し、研究に必要な基本的な技術・方法論を学ぶとともに、研究実施計画を作成・実践し、得られた結果を解析・十分考察したうえで、論文として発表する。

カリキュラム作成にあたっては、話題になっている問題や最先端の医療課題を学ぶために、内外の研究者による講演や先端技術の提示・演習などを組み入れ、それらも関連専攻科の単位として認めるフレキシブルな運用を行う。結果として院生の学習意欲を喚起する。

さらに平成20年度から開始した4年生（一部3年生）の研究成果の中間発表に加え、平成21年度から2年生に研究実施計画や研究成果の一部を発表させ、他専攻科の教員や院生と議論する場を設けた。これは、研究過程を公表することにより研究の質の向上と遅滞ない研究の遂行を促すことになる。

障がい等のある学生の修学については積極的に支援する。





❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士課程では、その教育理念や目的に即する人材を育成するため、各教育課程で必要な単位を修得し、当該分野の専門誌に公表あるいは採択された論文に対する公開審査に合格した者に学位を授与する。なお修了にあつては、以下の点に達していることを目安とする。

1. 医科学の分野で広く活躍するのに必要な幅広い知識・技能と問題解決能力を有する。
2. たゆまぬ自己研鑽によって、より高度な知識・技能や倫理観を身に着け、医学研究の発展に寄与できる姿勢を有する。
3. 国際社会や地域社会に積極的に貢献する意欲や実践力を有する。

